conyzoides (Compositae). Amer. J. Bot. Pullaiah, T. 1978. Embryology of *Tithonia*. Phytomorphology **28**: 437-444.

*　　*　　*　　*

ニトベギクの種子と果皮の形成を報告する。子房壁は成長するにつれて中央に分裂面が入り，そこに phytomelanin が沈積して内外 2 層に分かれる。外側の層は epidermis と hypodermis に分化する。内層は繊維束とそれを取り巻く柔組織層に分化する。ニトベギクの属するヒマワリ連では phytomelanin が沈積する裂け目ができるが，これは他にヒヨドリバナ連に見られる性質である。繊維束が分化することが系統的にどのような意味があるかは今後の問題である。

□ Sze, Philip: **A biology of the algae** i-ix+251 pp. 1986. Wm. C. Brown Publ., Dubuque, Iowa, U. S. A. ¥ ca. 4,500. 著者は序言でこの本の性格を次のように述べている。学生達は生物学について基礎知識をもっているが，藻類については殆ど知識がなく，また扱った経験もないように思われる。そこで最新の研究成果を逐一盛り込んで詳述するのではなく，藻類について広い知識を学生に与えるための初心者向の藻学の入門書として本書を作った。本文は次の 9 章から成る。1．藻類の特徴と多様性，2．藍藻類と原核緑藻プロクロロン，3．緑藻植物門（プラシノ藻綱，緑藻綱，車軸藻綱），4．黄金色藻植物門（黄金色藻綱，プリムネシウム藻綱，黄緑藻綱，真眼点藻綱，ラフィド藻綱，珪藻綱，褐藻綱），5．種々の鞭毛藻類（炎藻植物門，クリプト藻植物門，ユウグレナ植物門），6．紅藻植物門，7．植物プランクトン，8．淡水の附着性藻と気生藻，9．海産の附着性藻。最後に用語解説（7 頁）と 250 余編の文献及び 9 頁に亘る索引がある。上記の 2～6 章は分類を扱い，7～9 章は生態が中心である。各章の終りには更に知識を得たい人のために “Further Reading” の項が設けられ，数編の最新の主要な論文名が掲載されている。（千原光雄）

□ Shrestha, B. P.: **Forest plants of Nepal** 216 pp. 1989. Educational Enterprise, Kathmandu. ¥7,000. ネパールの森林を forestry の立場から概説したもの。冒頭に森林庁の略史が記されているが，これによるとネパールの森林行政はせいぜい50年前からで，組織的には1950年代からはじまったものである。地域ごとおよび森林型ごとに簡単な記述がされており，とくに見るべきものはないが，ネパール全体をカバーしている。樹種によってはローカルな用途が記されていて，参考になる部分もある。巻末に学名，ネパール名，用途などのリストがある。（金井弘夫）